

項目	内容
名称	ゲンチアナ [英]Great yellow gentian [学名]Gentiana lutea L.
概要	<p>ゲンチアナの根は非常に苦味があり、この苦味は10,000倍以上に薄めても消失しないほど強烈である。この苦味配糖体を主成分とし、消化促進や強壯の作用があると考えられている。</p>
法規・制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食薬区分 <ul style="list-style-type: none"> ・根、根茎：「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）」に該当する。 ・花：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。 ■ 日本薬局方 <ul style="list-style-type: none"> ・ゲンチアナが収載されている。

■ 食品添加物

- ・ 既存添加物
ゲンチアナ抽出物：苦味料等

■ 海外情報

- ・ 米国では、GRASに該当する。

成分の特性・品質

主な成分・性質

- ・ 根・根茎には苦味配糖体であるセコイリド型苦味配糖体アマロゲンチン (gentiamarin、gentiopicrin、amarogentin)、スウェルチアマリン (swertiamarin)、ゲンチオピクロシド (gentiopicroside) やアルカロイド [ゲンチアニン (gentianine)、ゲンチアルチン (gentiarutine)]、キサントン系黄色色素であるgentisin、トリテルペン、糖類、精油が含まれる。gentisin、isogentisinは変異原性があるとされる。
- ・ 薬用部分は根と根茎 (ゲンチアナ根)。根と根茎は若干発酵させて乾燥する。質は柔軟で破損しやすい。ヨーロッパ、小アジアに分布。多年草で高さ1~2 m。花期は7~8月。

分析法

- ・ アマロゲンチン (amarogentin)、ゲンチオピクロシド (gentiopicroside)、キサントングリコシド類が紫外可視検出器 (検出波長254 nm) を装着したHPLCにより分析されている (101)。
- ・ gentisin、isogentisinが紫外可視検出器 (検出波長254 nm) を装着したHPLCにより分析されている (102)。

有効性

循環器・呼吸器

調べた文献の中に見当たらない。

消化系・肝臓

調べた文献の中に見当たらない。

糖尿病・内分泌

調べた文献の中に見当たらない。

ヒト 生殖・泌尿器

調べた文献の中に見当たらない。

で 脳・神経・感覚器

調べた文献の中に見当たらない。

の 免疫・がん・炎症

調べた文献の中に見当たらない。

骨・筋肉

調べた文献の中に見当たらない。

発育・成長

調べた文献の中に見当たらない。

肥満

調べた文献の中に見当たらない。

その他

調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (20) ハーブ大百科 誠文堂新光社 デニ・バウン
(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(23) 天然食品・薬品・化粧品の記事 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について)
(58) The Complete German Commission E Monographs
(101) 北海道立衛生研究所報. 1990;40:103-6.
(102) 埼玉県衛生研究所報. 1994;28:36-9.